

1) 専門研修基幹施設

岐阜県総合医療センター

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があり、24時間利用可能です。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント委員会が設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含めて利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は26名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2017年度実績 医療倫理 1回、医療安全 18回、感染対策 23回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2019年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催（2017年度実績 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます（2017年度実績 57回：救命センター症例検討会 46回、病診連携がんカンファレンス 5回、病診連携緩和ケアカンファレンス 5回、オープン病床クリニカルミーティング 1回）。 ・ プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70疾患群のうち全疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2016年度実績 7体、2017年度 4体）を行っています。

認定基準 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2017年度実績 11回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2017年度実績 12回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2017年度実績6演題）をしています。
指導責任者	<p>野田俊之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>岐阜県総合医療センターは岐阜市を含む岐阜地区での唯一の救命救急センターを運営している病院であり、「断らない医療」をモットーとしています。1次救急から3次救急に及ぶ大変多くの救急症例を受け入れており、そのために幅広い領域で豊富な症例を経験することができます。また、岐阜県総合医療センターが認定されている医療機関群Ⅱ群施設は大学病院本院に準じた病院とされており、若手医師の教育を重要な責務としているのみならず岐阜県内の医療をリードする役割を担うため、他院では行えないような高度先進医療にも積極的に取り組んでいます。多くの指導医・先輩医師による分厚い指導体制も当院の特徴です。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 30名, 日本内科学会総合内科専門医 16名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 7名, 日本循環器学会循環器専門医 11名,</p> <p>日本内分泌学会専門医 1名, 日本糖尿病学会専門医 3名,</p> <p>日本腎臓病学会専門医 4名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名,</p> <p>日本血液学会血液専門医 1名, 日本神経学会神経内科専門医 4名,</p> <p>日本リウマチ学会専門医 1名, 日本感染症学会専門医 1名,</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 4名, ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 28,055名 (1ヶ月平均) 入院患者 16,077名 (1ヶ月平均延数)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p>

<p>日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など</p>
--

2) 専門研修連携施設

1. 岐阜大学医学部付属病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は59名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行う（2015年度実績 24回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 0回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 20演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>川崎雅規</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>岐阜地域の『最後の砦』として当院のスタッフは一丸となって診療にあたっています。他の病院では経験できないような非常に難治性の疾患や他領域にまたがる複雑な疾患、稀少疾患など極めて多様性に富む症例を多数経験し、最先端の診断、治療を学ぶことができます。 subspecialty領域の学会専門医も多数在籍しており、希望する subspecialty領域の研修にも柔軟に対応できます。 各種学会、研究会への参加、論文執筆などの学術活動にも積極的に取り組んでいます。 さらに基礎研究や臨床研究に携わる研究者や大学院生との交</p>

	<p>流を通じ、臨床医としてだけでなく、研究者としての科学的な目を養うことができます。Generalist、specialistとして研鑽を続ける、大学院に入学するなど今後どのようなキャリア形成を目指していくかにかかわらず、岐阜大学医学部附属病院での研修で得られた貴重な経験は必ず役に立つと思います。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 33名, 日本内科学会総合内科専門医 30名, 日本消化器病学会消化器専門医 11名, 日本循環器学会循環器専門医 9名, 日本内分泌学会専門医 5名, 日本糖尿病学会専門医 13名, 日本腎臓病学会専門医 2名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名, 日本血液学会血液専門医 4名, 日本神経学会神経内科専門医 3名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 1名, 日本リウマチ学会専門医 3名, 日本感染症学会専門医 1名, ほか</p>
<p>外来・入院 患者数</p>	<p>外来患者 8,767名 (1ヶ月平均) 入院患者 4,599名 (1ヶ月平均延数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設</p>

	日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペースング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	---

2. 愛知医科大学病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型相当大学病院です。 ・ 研修に必要な医学情報センター（図書館）があり、文献検索や電子ジャーナルの利用が24時間可能なインターネット環境が院内全体に整っています。 ・ 専攻医は、愛知医科大学病院助教（専修医）として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント委員会が設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 臨床系女性教員の特別短時間勤務を実施しています。 ・ 敷地内に院内保育所『アイキッズ』があり、病児保育、給食対応の実施を行っており、利用が可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科指導医は78名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的で開催（2015年度実績 4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 30回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 12演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>道勇学</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大学病院のメリットとして、多くの専門領域の指導医のもとで、豊富で多彩な症例と高度な医療を実践できます。また、症例発表はもちろん、臨床的、基礎的研究を行う素地が整っていますので、レベルの高いリサーチマインドの素養をも修得できます。</p>
<p>指導医数</p>	<p>日本内科学会指導医 78名，日本内科学会総合内科専門医 33名</p>

(常勤医)	日本消化器病学会消化器専門医 21名, 日本循環器学会循環器専門医 21名, 日本内分泌学会専門医 4名, 日本糖尿病学会専門医 6名, 日本腎臓病学会専門医 13名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7名, 日本血液学会血液専門医 14名, 日本神経学会神経内科専門医 9名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 8名, 日本リウマチ学会専門医 7名, 日本感染症学会専門医 4名, 日本救急医学会救急科専門医 8名, ほか
外来・入院 患者数	外来患者 15,083名 (1ヶ月平均) 入院患者 8,587名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	---

3. 岐阜市民病院

<p>認定基準</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が29名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催（2015年度実績 10回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 12回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1演題以上の学会発表（2015年度実績 4演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>橋本和明</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>岐阜市民病院は、岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院です。岐阜医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることができます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 29名、日本内科学会総合内科専門医 15名 日本消化器病学会消化器専門医 10名、日本循環器学会循環器専門医 5名、 日本内分泌学会専門医 1名、日本糖尿病学会専門医 4名、 日本腎臓病学会専門医 3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名、</p>

	日本血液学会血液専門医 2名, 日本神経学会神経内科専門医 1名, 日本リウマチ学会専門医 1名, 日本救急医学会救急科専門医 2名, ほか
外来・入院 患者数	外来患者 30,671名 (1ヶ月平均) 入院患者 15,694名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

4. 岐阜県厚生農業協同組合連合会 中濃厚生病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は17名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 1回、感染対策 1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的で開催（2015年度実績 10回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 1回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績 3演題）をしています。
指導責任者	<p>松野康成</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>中濃厚生病院では豊富な救急医療の件数（平成26年度の救急医療は1日平均45.6人と岐阜県下の病院で第5位の数字）があります、また、病院全体の一日平均入院患者数は400人前後、一日平均外来患者数が約1000名と患者数・症例が豊富であり、多くの症例を主担当医として経験でき実践的な研修が可能です。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 17名、日本内科学会総合内科専門医 9名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 6名、日本循環器学会循環器専門医 5名、</p> <p>日本内分泌学会専門医 1名、日本糖尿病学会専門医 2名、</p> <p>日本腎臓病学会専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名、</p> <p>日本血液学会血液専門医 1名、日本神経学会神経内科専門医 1名、</p>

	日本リウマチ学会専門医 1, 日本感染症学会専門医 1名, 日本救急医学会救急科専門医 4名, ほか
外来・入院 患者数	外来患者 19,457名 (1ヶ月平均) 入院患者 11,190名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

5. 高山赤十字病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室更衣室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は7名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 20回、感染対策 6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催（2015年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 15回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 5演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>浮田雅人</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>地域医療の中心となる当院では、急性期から慢性期、そして在宅となるまでを一貫して主担当医として受け持つことができます。週1回は外来を担当していただきますので外来にてひきつづき患者さんの治療を続けることができます。循環器科以外は一つの内科として診療を行っているのでsubspecialtyの指導医の指導を受けつつも多疾患をもつ患者を総合的に診療できます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 7名、日本内科学会総合内科専門医 5名 日本消化器病学会消化器専門医 3名、日本内分泌学会専門医 2名、 日本糖尿病学会専門医 2名、日本血液学会血液専門医 1名、 日本救急医学会救急科専門医 2名、ほか</p>

外来・入院 患者数	外来患者 3,995名 (1ヶ月平均) 入院患者 4,054名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 など

6. 岐阜県立下呂温泉病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室更衣室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は2名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的で開催（2015年度実績 1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 0演題）をしています。
指導責任者	<p>大平敏樹</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>岐阜県では唯一の山村にある県立病院で、2014年に新築移転されました。周囲に入院設備を有する病院が少ないため、下呂市およびその周辺地域の中核病院として幅広い領域にわたる多くの症例を受け入れています。県立下呂温泉病院では伝統的にリハビリやコメディカルが充実しており、他職種との協働のなかで多様な臨床場面での研修も可能です。患者層は超高齢者が多く、その意味では日本の未来を先取りした地域医療を実践・習得することが可能です。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 2名, 日本循環器学会循環器専門医 1名, ほか
外来・入院 患者数	外来患者 7,203名 (1ヶ月平均) 入院患者 4,349名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など

7. 郡上市民病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急のほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 0演題）をしています。
指導責任者	<p>松野康成</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>郡上市民病院は、山紫水明の町である郡上市八幡町内に位置し、東海北陸自動車道郡上八幡インターから車で約1分の所にあります。郡上市は、高山市に次いで広大な面積を有し、当院はその中核病院としての役割を担い、プライマリーケアを含めて多種の疾患の患者様を診させていただいています。自然あふれる環境の中での研修を体験してみませんか。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 1名、日本腎臓病学会専門医5名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 2,258名（1ヶ月平均） 入院患者 977名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など

8. 市立恵那病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 4名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2014年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度でなく、1次・2次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 0演題、2016年度 1題発表予定）をしています。
指導責任者	山田誠史 【内科専攻医へのメッセージ】 恵那市の国保山岡診療所へは、当院から医師が派遣されていること、当院の電子カルテ端末が設置されていること、在宅・往診医療が体験できること、その他の国保診療とも24時間の連携協定を結ぶ予定であること、当院には、訪問看護ステーションが併設されていること、などなど、入院から在宅医療へ移行したとしても、主治医として続けて連続して診療できることが一つの特徴です。特に癌患者のターミナルケア、緩和ケアを経験できます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4名、日本内科学会総合内科専門医 1名 日本消化器病学会消化器専門医 3名、日本循環器学会循環器専門医 1名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 5,428名 (1ヶ月平均) 入院患者 3,968名 (1ヶ月平均延数)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本老年医学会教育研修施設 など

9. 美濃市立美濃病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は3名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理 2回、医療安全 2回、感染対策 3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 12回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、血液および感染症を除く、総合内、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 2演題）をしています。
指導責任者	三浦淳 【内科専攻医へのメッセージ】 急性期医療のみならず、在宅医療や訪問看護・近隣開業医との連携を含む慢性期・維持期・地域包括医療を経験することができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3名，日本内科学会総合内科専門医 2名 日本消化器病学会消化器専門医 1名，日本糖尿病学会専門医 2名， 日本リウマチ学会専門医 1名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者 6,000名（1ヶ月平均） 入院患者 3,300名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本老年医学会認定施設 など</p>

10. 岐阜県厚生農業協同組合連合会 揖斐厚生病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は7名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015年度実績 医療倫理 2回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行う（2015年度実績 1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 2回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、アレルギーと膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 1演題）をしています。
指導責任者	<p>渡邊一弘</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>揖斐厚生病院は西濃医療圏に位置し、西濃北部地域の中核病院として急性期・回復期並びに慢性期までの基礎的、専門的な医療を学べます。主治医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの診断・治療の流れを通じ、社会的背景・療養環境調整をも包括する医療を実践出来る内科専門医になります。急性期医療に留まらず、がん患者の診断・治療、緩和ケア、終末期医療などを通じ、地域に根ざした医療や病診連携・病病連携等が経験できます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7名、日本内科学会総合内科専門医 5名 日本循環器学会循環器専門医 5名、日本救急医学会救急科専門医 1名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者11,538名（1ヶ月平均） 入院患者 6,129名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患

	群の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病 病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 など

11. 各務原リハビリテーション病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理 0回、医療安全 12回、感染対策 12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、内分泌、代謝、腎臓、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 0演題）をしています。
指導責任者	磯野倫夫 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、療養病棟に加えて特殊疾患病棟や回復期リハビリテーション病棟を有し、いずれの病棟においてもポストアキュートや回復期の受入れを地域における役割として意識、注力しています。専門医研修においても、地域で実際に提供されている医療展開と同様に、基幹病院との連携医療機関として、急性期医療から地域医療へと連続性を持った研修が可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 2名、日本糖尿病学会専門医 1名、日本神経学会神経内科専門医 1名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 1,766名 (1ヶ月平均) 入院患者 2,870名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

12. 河村病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 4名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 3回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行う（2014年度実績 11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2014年度実績 2回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、ほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績 2演題）をしています。
指導責任者	<p>河村信利</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、「一般病棟」「療養病棟」「回復期リハビリテーション病棟」「障害者病棟」、さらに関連施設として「介護老人保健施設」「特別養護老人ホーム」等の介護保険施設も有し、急性期から慢性期までの患者の研修が可能です。また、「日本神経学会教育施設」「日本脳卒中学会認定研修教育病院」「日本認知症学会教育施設」でもあり、神経難病、脳血管障害、認知症等の神経疾患の診断・治療・研究にも力を注いでいます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4名、日本内科学会総合内科専門医 2名 日本神経学会神経内科専門医 3名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 2,175名 (1ヶ月平均) 入院患者 8,558名 (1ヶ月平均延数)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会専門医制度認定教育施設 など

13. 岐阜赤十字病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は7名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015年度実績 医療倫理 0回、医療安全 18回、感染対策 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行う（2015年度実績 1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 10回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 3演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>石森正敏</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>研修医が人道・博愛の赤十字精神のもと、プライマリ・ケアを中心とした基礎的診療から災害救護活動まで、幅広い分野で活動できることを目標としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消化器内科 <p>消化管では上部・下部内視鏡検査、カプセル内視鏡など通常検査から、精査、内視鏡治療まで幅広く実施。肝では肝疾患のマネジメント、肝癌のラジオ波凝固療法、冠動脈塞栓化学療法、胆膵では各種膵胆道内視鏡検査・治療などの経験が可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血液内科

	<p>造血器悪性疾患を中心に研修を行うことができ、化学療法・造血幹細胞移植などの経験が可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器内科 <p>虚血性心疾患や心不全を中心に治療を行い、心臓カテーテル検査等、各種検査の概要と病棟における循環器疾患の管理について研修することが可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器内科 <p>肺炎・喘息・COPD・肺癌・気胸・間質性肺炎・胸水といったcommon diseaseを一通り研修することが可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲状腺・糖尿病内科 <p>甲状腺については県内外から非常に多くの症例が集まり、様々な疾患を経験することが可能。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 7名, 日本内科学会総合内科専門医 6名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 4名, 日本循環器学会循環器専門医 2名, 日本内分泌学会専門医 3名, 日本糖尿病学会専門医 4名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名, ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 13,412名 (1ヶ月平均) 入院患者 6,774名 (1ヶ月平均延数)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本血液学会認定研修施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設</p> <p>日本感染症学会認定研修施設</p> <p>など</p>

14. 独立行政法人国立病院機構 長良医療センター

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は5名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 6回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行う（2015年度実績 1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 11回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、循環器、呼吸器、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 1演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>安田成雄</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>呼吸器専門医療機関として、豊富な呼吸器疾患症例（1日平均110名の入院患者、平均60名／日の外来患者）により、一般的な呼吸器疾患から希少症例まで経験できます。また、アレルギーや感染症の分野においても呼吸器疾患を中心に経験できます。経験豊富な指導医が、呼吸管理、画像診断、気管支ファイバーなどの技能を指導します。またチーム医療（ICT、RST、緩和チーム）や終末期に関する意思決定などの患者さんと関わりも学ぶことができます。また循環器内科では、経験豊かな専門医より、丁寧な指導を受けられます。心臓カテーテル検査の手技や心臓リハビリテーションについて、実践的な研修が可能です。</p>

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5名, 日本内科学会総合内科専門医 3名 日本消化器病学会消化器専門医 1名, 日本循環器学会循環器専門医 2名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名, 日本感染症学会専門医 1名, ほか
外来・入院 患者数	外来患者 4,205名 (1ヶ月平均) 入院患者 11,397名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 など

15. 下呂市立金山病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 (2016年度実績 医療倫理0回、医療安全2回、感染対策2回) ・研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2016年度実績0回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2016年度実績13回）
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2016年度実績2演題）
指導責任者	木村美香 【内科専攻医へのメッセージ】 プライマリーケアを中心に、高度医療機関と連携して研修を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医2名
外来・入院 患者数	外来患者3,900名（1ヶ月平均）、入院患者2,350名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

16. 松波総合病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、当直室が完備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、24時間利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 20 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全・感染対策講習会を定期的開催。 (2017年度実績 医療倫理 2回、医療安全 2回、感染対策 2回) 各専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催(2017年度実績 12回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2017年度実績30体、2016年度実績42体）を行っています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2017年度実績3演題）をしています。
指導責任者	<p>山田 梨絵</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>松波総合病院は、岐阜医療圏に位置して地域中核病院として急性期から慢性期までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として入院から退院まで経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来る内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 20 名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 18 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 9 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 6 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名</p> <p>日本内分泌学会内分泌専門医 9 名</p> <p>日本糖尿病学会専門医5名、他</p>
外来・入院 患者数	外来患者 11,407名 (1ヶ月平均) 入院患者 13,827名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	13領域のうち、地域中核病院として12領域65疾患群の症例を経験するこ

	とができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く学ぶことができます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけではなく、超高齢化社会に対応したがん患者の診断、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験出来ます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導医施設 日本消化器病学会専門医 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌代謝学会内分泌代謝科認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会 アレルギー専門医準教育研修施設 など

17. 岐阜県厚生農業協同組合連合会 西美濃厚生病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2017年度実績 医療倫理1回、医療安全12回、感染対策12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2019年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2017年度実績 0回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2017年度実績 1回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1演題以上の学会発表（2017年度実績 1演題）をしています。
指導責任者	前田晃男 【内科専攻医へのメッセージ】 当院では診療科を区別せずに幅広く研修を受けることができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1名、日本内科学会総合内科専門医 3名 日本消化器病学会消化器専門医 4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名、 日本アレルギー学会専門医（内科） 1名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 8,646名（1ヶ月平均）、入院患者 6,187名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病

療・診療連携	病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

18. 市立敦賀病院

<p>認定基準</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が10名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2017年度実績 医療倫理 2回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2019年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的で開催（2017年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2017年度実績 20回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1演題以上の学会発表（2017年度実績 1演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>三田村康仁</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立敦賀病院は、福井県嶺南医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、回復期医療を行う地域包括ケア病棟を有し、また在宅医療（訪問診療）も実施しています。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践でき、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指しています。</p> <p>また研修スタイルは研修医と相談しながら、個々の研修目標に応じた研修を行うことが可能です。</p>
<p>指導医数</p>	<p>日本内科学会指導医 10名、日本内科学会総合内科専門医 3名</p>

(常勤医)	日本消化器病学会消化器専門医 2名, 日本循環器学会循環器専門医 2名, 日本内分泌学会専門医 1名, 日本糖尿病学会専門医 1名, 日本腎臓病学会専門医 2名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 1名, 日本感染症学会 1名, ほか
外来・入院 患者数	外来患者 8,397名 (1ヶ月平均) 入院患者 8,143名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など